

ふみくら

2018-No. 6

平成 31 年 3 月 13 日

城陽高校図書館 だより
京都府立城陽高等学校図書館発行

今年度のベストリーダー、ベストリーディングを発表します。

よく読みました!

☆1・2年生のベストリーダー (2018年4月~2019年3月11日までの貸出冊数。)

☆1年生ベストリーダー上位3名☆

1位	1年7組	HOさん	103冊
2位	1年8組	MKさん	102冊
3位	1年8組	KSさん	79冊

☆2年生ベストリーダー上位3名☆

1位	2年1組	MMさん	78冊
2位	2年3組	MTさん	51冊
3位	2年4組	MTさん	24冊

貸出冊数が100冊を超えると、貸出冊数3冊以内の制限がなくなり、何冊でも借りることができます。

100冊超を超えた人は、現在1年生2名、2年生1名(1位のMMさんは1年生からの合計181冊)です。

「貸出利用なし」の割合は1年生が59%、2年生が87%でした。

☆ベストリーディング (2018年4月~2019年3月11日の間によく借りられた本。)

☆ベストリーディング上位5タイトル * (著者) ☆

- 1位 僕はロボットごしの君に恋をする (山田悠介)
- 2位 また、同じ夢を見ていた (住野よる)
- 3位 君の臍臓をたべたい (住野よる)
- か「」く「」し「」ご「」と「」 (住野よる)
- 青くて痛くて脆い (住野よる)
- 君は月夜に光り輝く (佐野徹夜)
- 春期限定いちごタルト事件 (米澤穂信)
- 何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ



二〇六〇年、三度目のオリンピックを控えた東京が舞台。テロ対策用人工知能ロボットで思いを伝えようとする青年。人間とAIについて考えさせられる作品です。

郷土の本 ~ 地元 のこと が書かれた本を 紹介 します。~



大正文士のサロンを作った男 奥田駒蔵とメイゾン鴻乃巢 奥田万里著 幻戯書房

明治15年久世郡寺田村に生まれた奥田駒蔵は明治末に故郷の鴻巣山にちなんだ「メイゾン鴻乃巢」という西洋料理店を東京で開業しました。明治末期~大正時代、この店には志賀直哉、北原白秋、与謝野晶子、吉井勇ほか、教科書に名前が出てくる文士・芸術家・社会主義者たちが集う文化の発信基地となっていました。駒蔵は大正14年惜しくも43歳の若さで亡くなり、多くの文人がその死を悼みました。この本を書かれた奥田万里さんは駒蔵の義理の孫にあたる方で、このたび城陽高校に本をご寄贈いただきました。城陽の自由人と文化人たちのおもしろいお話が読めます。郷土資料のコーナーにありますので、ぜひ読んでみてください。

お知らせ 図書館は春休み中は閉館です。次の開館日は4月8日(月) 始業式。元気で会いましょう!

春休み向け貸出しを3月13・14、20日に行います。返却期限は4月12日。何冊でも借りることができます。

私の人生を変えた一冊の本

前回の「ふみくら」にも書きましたが、本年度が教員生活最後の年です。「ふみくら」への投稿も最後になります。何を書こうか色々悩んだんですが、やっぱり「ふみくら」(文倉)ですので、本について書こうと思います。先日、ある2年生の生徒さんとこんな会話をしました。

私：「〇〇さん、もうすぐ3年生やけど進路はこの前言ってたように、〇〇師になるためあの〇〇専門学校に行くやろ。」

生徒：「先生。ずっとそのつもりでいたんやけど、最近どうでもよくなってきたんです。別に絶対やりたい仕事でもないし。親にあの仕事に就きなさいと言われてたこともないし。」

ふと私も40年前のことを思い出しました。いつも生徒さんに偉そうなことを言っていますが、自分はどうかだったのか。実は私も高校3年生になって、**全国の全ての高3生が必ず出会うあの本**に出会うまでは、先ほどの生徒さんとほぼ同じでした。ただ漠然と大学だけには行こうと思っていましたので勉強はしていましたが。

さて、その本はなんでしょう？これを読んでいる生徒さんは、まだ1年生か2年生ですので将来必ず読むと思います。その時に私の話を思い出してください。「えー、あの本で人生変わったなんて仕事が違うやんか。」でも本当にこの本で人生が変わったんです。何でやと思う人は図書館に来てください。**「内本の図書館に行こう」**でした。

芸術科(書道)内本明広

図書室へ古文書をさわりに行こう！

城陽高校の図書室には、江戸時代や明治・大正・昭和の古文書・古書籍が展示されており、いつでも手に取って見ることができます。あまり知られていないようなので、以下にどのような古文書があるかいくつか紹介しておきます。

一番古いのは寛政二年(1790)の『女大学』です。良家の娘が嫁入り道具のひとつとして持参したもので、昔の道徳訓である”女子三従の教え”などが書かれています。文化7年(1810)の『借家人申渡連印帳』は京都の借家人が守るべき心得を連判しています。あと、江戸時代の寺子屋で使われた『実語教』『童子教』が4冊、由井正雪の変を題材とした安政3年(1856)の実録本などもあります。明治・大正・昭和の古書籍類は戦前の教科書類や偉人伝や絵本などが中心です。



『借家人申渡連印帳』

和紙に書かれた和書は軽くて丈夫で墨も長持ちし、紙が折れても戻るといった特徴があります。是非、さわりに来てください。また、日本史の教科書や資料集なども今はすべて活字で書かれています。その元となったものは全て墨で書かれている古文書なのです。先人達の努力により何億枚もの古文書資料が解読され、それが活字資料として教科書や本として出版されているということを知ってほしいと思います。

地理歴史科 村本幹夫(42年の古文書より)

*内本先生の人生を変えた本の題名は二文字です。古文書は村本先生所蔵のものを図書館で展示しています。